

## 「中風の人をいやす」

2015年05月22日

ルカによる福音書 5章17節～26節。ある日のこと、イエスが教えておられると、ファリサイ派の人々と律法の教師たちがそこに座っていた。この人々は、ガリラヤとユダヤのすべての村、そしてエルサレムから来たのである。主の力が働いて、イエスは病気をいやしておられた。すると、男たちが中風を患っている人を床に乗せて運んで来て、家の中に入れてイエスの前に置こうとした。しかし、群衆に阻まれて、運び込む方法が見つからなかったため、屋根に上って瓦をはがし、人々の真ん中のイエスの前に、病人を床ごとつり降ろした。イエスはその人たちの信仰を見て、「人よ、あなたの罪は赦された」と言われた。ところが、律法学者たちやファリサイ派の人々はあれこれと考え始めた。「神を冒瀆するこの男は何者だ。ただ神のほかには、いったいだれが、罪を赦すことができるだろうか。」イエスは、彼らの考えを知って、お答えになった。「何を心の中で考えているのか。『あなたの罪は赦された』と言うのと、『起きて歩け』と言うのと、どちらが易しいか。人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを知らせよう。」そして、中風の人に、「わたしはあなたに言う。起き上がり、床を担いで家に帰りなさい」と言われた。その人はすぐさま皆の前で立ち上がり、寝ていた台を取り上げ、神を賛美しながら家に帰って行った。人々は皆大変驚き、神を賛美し始めた。そして、恐れに打たれて、「今日、驚くべきことを見た」と言った。

中風で寝たきりになった人を四人の友人たちが床に乗せ、主イエスにいやしてもらおうと運んできた。ところが、主イエスの周りには民衆が群がり、近づくことができなかった。彼らは屋上に登り、屋根の瓦を剥がし、主イエスの前につり下ろした。当時、屋上でテントを張って仮庵の祭りをするため、屋上に登る階段が作られていた。また、外壁は頑丈に作られているが、屋根は比較的粗末であった。しかし、他人の家を壊してまで、こんな行動をするだろうか。ここには、中風の人の苦しみを自分のこととし、いやしてもらいたいという友人たちの素晴らしい友情がある。

天井から中風の人を乗せた大きな床が降りてきて、部屋中にごみが舞い散った。いやしてくださいと上から覗きこむ友人たち、自分の足で立てない見苦しい姿をさらけ出している中風の人、これほどの友情に結ばれた彼らの信仰を主イエスは見た。そして、中風の人に「子よ、あなたの罪は赦される」と言った。群がる民衆の中には、主イエスの律法違反の言動を掴まえ、訴えようとする律法学者たちがいた。彼らは「罪は赦される」という神の権能である言葉を聞き「神への冒瀆」だといぶかる。彼らの考えを見抜かれた主イエスは、「罪は赦された」と言うのと「起きて歩け」と言うのと、どちらが易しいか、私は罪を赦す権威を持っていることを知らせようと言われ、「わたしはあなたに言う。起き上がり、床を担いで家に帰りなさい」と宣言された。彼は宣言通り、立ち上がり、床を取り上げ、家に帰って行った。主イエスは罪を赦す権威を持つ方であると明言し、告知している。

罪の赦しとは、神から是認され、神が共にいてくださる（インマヌエル）現実である。神が共にいてくださるから、床に乗せられて人に運ばれる生き方から、自ら立って歩く自分の人生を見出していく。自分の見苦しい姿をさらけ出し、いやしを懇願する者に、主イエスは「あなたの罪は赦される」と宣言してくださる。立てない私を主イエスに運んでくれた友人たちと共に「罪の赦し」に与ってきたことを私も感謝している。